

互いに学び合う、充実した授業づくりのポイント

先生方が日々の授業を振り返る際や校内研修の資料としてご活用できるように、「授業づくりのポイント」を示しました。詳しい内容については、冊子の該当ページをご覧ください。
また、自己の重点の欄は、日々の授業や校内研修等で重点を定めて取り組む際に、ご活用ください。

大項目		細目	授業づくりのポイント		ページ	自己の重点
単元構想	単元	単元の本質	①	単元の学習内容や育てたい資質や能力をとらえた系統性ある単元を展開する。	P. 4 P. 5	
		実態把握	②	単元展開や授業に生かせる実態把握を行い、それを学習形態の選定や学習活動に活用する。		
		評価計画	③	求める子どもの姿を具体的にとらえ、指導に生かせる評価を行う。		
授業設計	本時	整合性	④	単元目標から本時のまとめまでの整合性を図る。	P. 6	
		手立て	⑤	子どもが課題解決に向かい、ねらいを達成するために適切かつ明確な手立てを講じる。	P. 7	
指導	学習課題	設定	⑥	子どもが考える必然性のある学習課題設定を行う。	P. 8	
		見通し	⑦	課題解決の方法や調べる視点などの見通しをもたせる。	P. 9	
	働きかけ	発問	⑧	考える視点や方法、手がかりを明確にした上で、思考を促す発問を行う。	P.10 P.11	
		見取り	⑨	適切な机間指導により、子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かす。		
		支援	⑩	一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じる。		
	学び合い	コーディネート	⑪	個々の考えの見取りに基づき、子どもの発言をつなぐ働きかけを意図的・計画的に行う。	P.12 P.13	
		交流活動	⑫	ねらい達成に向けた話し合いを行う中で、一人一人の考えを共有・吟味する。		
		板書	⑬	子どもの言葉を生かして、思考過程が分かる構造的な板書とする。		
	学習のまとめ	まとめ	⑭	子どもの言葉や思考を生かして適切にまとめを行う。	P.14 P.15	
		振り返り	⑮	自己の変容や成長を自覚する機会をつくり、振り返りをさせる。		
		ノート指導	⑯	学習を振り返ることができるノートになるよう、適切な指導を入れている。		

要請訪問を授業改善へ向けての効果的な機会とするために

- ① 各教師が児童生徒の実態や自分の授業力向上への改善点を考慮した上で、上記のポイントを活用して授業力向上の具体的な視点を設定し、その具現策を位置づけた指導案を作成する。
- ② 校長・教頭等は各教師の視点を把握し、指導案作成の段階から具体的に指導・助言する。
- ③ 要請訪問では、指導主事は視点や具現策に基づいて授業を参観し、授業者の工夫・努力を評価し、具体的に助言することにより、主体的に授業力向上に取り組む意欲を高める。